

2. カザグルマ（キンポウゲ科センニンソウ属）

Clematis patens Morr. et Decaisne

2014年4月

落葉性つる植物で、本州中南部、四国、九州、東アジアに分布します。兵庫県下は小野市、加東市から三田市にかけて、やや湿った林縁部に生育しています。葉は3～5小葉ですが、多くは3小葉です。長い柄があり、他の植物に巻き付き、つるを高く伸ばします。茎は細く折れやすい特徴は園芸植物のクレマチスも同様で、折れても先は枯死しません。花は新たに出た枝の先に1個付け、5月から6月にかけて上向きに開花します。花卉に見えるのはがく片で、多くは8枚で白色から淡紫色まで生育地によりわずかに違います。園芸種のクレマチスは中国原産のテッセン（*Clematis florida* Thunb.）やカザグルマを改良して作出されたもので、花卉様ががく片の数は品種により変化に富みます。兵庫県版レッドデータブック 2010のBランク、近畿地方の保護上重要な植物レッドデータブック 2001はAランク、改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物 2007はNTランクに位置する絶滅に瀕している植物で、保護を要します。カザグルマと同属の植物にセンニンソウ（*Clematis terniflora* DC.）とボタンヅル（*Clematis apiifolia* DC.）があります。両種とも私たちの身近な植物で、ため池土手や丘陵地の林縁部に生育している美しい種類です。本州中部地方の山地にはボタンヅルとよく似たコボタンヅル（*Clematis apiifolia* DC. var. *biternata* Makino）が見られ、葉の形態や花の大きさが異なります。そのほかのセンニンソウ属にハンショウヅル（*Clematis japonica* Thunb.）があります。名前の由来なる半鐘^{はんしょう}（つりがね）の形の花を咲かせます。山地などに生育するので身近ではありませんが、多くの種類があります。



カザグルマ



センニンソウ



ボタンヅル



コボタンヅル